

# 献 辞

人文学部学部長 人間文化学会長 佐藤 嘉倫

2023年3月末をもって、乳原孝先生、伊原千晶先生、池田慎之介先生が退職されることになりました。

乳原孝先生は1984年3月に関西学院大学大学院文学研究科を単位取得退学された後、英国留学をされ、近畿大学、四天王寺国際仏教大学、相愛大学、本学の前身の京都学園大学で非常勤講師を務められました。そして1998年4月に京都学園大学経営学部<sup>1</sup>に助教授として赴任されました。その後、2003年4月に教授に昇任され、2015年4月に人文学部教授になられ、2020年4月に特任教授になりました。その間に、経営学部学生主事、人文学部入試主事、入学センター長を歴任され、本学の学内業務に多大な貢献をされました。

先生はイギリス近世史を専攻され、二次文献のみを用いた研究や刊行史料のみを用いた研究が支配的である日本の西洋史研究において、ブライドウェル矯正院<sup>2</sup>法廷記録等のマニュスクリプト史料を用いた研究を行いました。16世紀のエリザベス時代だけでも1万件を超える法廷記録を分析し、当該施設の活動実態を明らかにしました。その研究成果は『エリザベス朝時代の犯罪者たち—ロンドン・ブライドウェル矯正院の記録から—』（嵯峨野書院、1998年）や『「怠惰」に対する闘い—イギリス近世の貧民・矯正院・雇用—』（嵯峨野書院、2002年）等によって世に問われています。また教育面では「西洋史概説A・B」などを担当され、2016年度には人文学部ベストティーチャー賞を受賞されています。

先生からは学生に贈る言葉として「今後、自然環境も政治環境もますます厳しくなっていくと思います。そういう時代だからこそ人文学がますます必要になってきます。人文学は社会のあり方や人の生き方を教えてくれ

るからです。学生の皆さんはたくさん本を読んで下さい。君といふ一冊の本「青嵐」というお言葉をいただきました。学生と人文学に対する愛情を感じる、先生ならではの言葉と思います。

伊原千晶先生は1982年3月に京都大学薬学部を卒業された後、1985年4月に京都大学教育学部心理学科3回生に編入され、1992年3月に京都大学大学院教育学研究科を単位取得退学されました。その後1996年に京都学園大学法学部に専任講師として赴任され、1999年4月に人間文化学部助教授に昇任されました。そして2015年4月には人文学部准教授になられています。学内的には、人間文化学会運営委員長を務められ、学会のさまざまな活動を支援してくださいました。

先生は薬剤師の資格をお持ちになりその視点から臨床心理学を研究されてきました。その成果は『薬剤師のこれから』（晃洋書房、2016年）や「疾病観の変遷とコミュニケーション教育の展開—不確実性の時代の対人援助職教育—」（『人間文化研究』第40号、2018年）等で公表されています。また教育面では「臨床心理学Ⅱ」や「公認心理士の職責」等、臨床心理学を中心とした授業科目を担当されてきました。

先生から学生に贈る言葉として「晴れ渡った空は美しく、いつまでも続いて欲しい、と思うものです。けれども、そのまま一滴の雨も降らなかつたら、どうなるでしょうか？草木は枯れ、世界は干上がってしまいます。人生も同じです。土砂降りの時もあるでしょう。けれども、大雨による氾濫の後の肥沃な大地の上に、古代から文明が栄えてきました。明けない夜は無く、止まない雨はありません。樹の年輪は、冬の時代、十分に育つことができなが故に刻まれますが、その年輪こそが、樹を強くします。自分を信じて、人を信じて。自分に誠実に、そして人にも誠実に。人生のゴールまで、挫けずに歩んでください。いつか必ず、道は開けますから」というお言葉をいただきました。学生に対して力強い励ましとなる言葉だと思います。

池田慎之介先生は2020年3月に東京大学大学院教育学研究科を単位取得

満期退学されました。そして同年4月に本学人文学部に専任講師として赴任され、2022年4月には博士(教育学)を取得されるとともに准教授に昇任されました。その間に学部教務委員等を務め、学内業務にも貢献して下さりました。

先生は発達心理学、認知心理学、感情心理学を専攻され、その研究成果は“Social sensitivity predicts accurate emotion inference from facial expressions in a face mask: A study in Japan”( *Current Psychology*, 2023) や “Development of emotion recognition from facial expressions with different eye and mouth cues in Japanese people”( *The Journal of Genetic Psychology* 184 (1), 2023) 等、数多くの論文で公表されています。また教育面では「発達心理学」や「発達心理学特論」等、発達心理学を中心とした授業科目を担当されてきました。先生は教育にも熱心に取り組まれてきました。「心理学応用実験A」「発達心理学」で2021年度授業評価賞を受賞したことはその証左でもあります。

先生から学生に贈る言葉として「大学生活は楽しんだもん勝ちだと思うので、設備も教員もイベントも利用して大いに楽しんでください」というお言葉をいただきました。研究教育を楽しんでこられた先生ならではのお言葉だと思います。

3人の先生方が同時に本学部から去られることは本当に残念ですが、これまでの先生方の本学へのご尽力に感謝申し上げますとともに、先生方の今後のさらなるご活躍をお祈りいたします。